デンマークの生涯学習における「従前学習認証」に関する研究：従前学習認証の展開の現状とノンフォーマル成人教育での実践

佐藤 裕紀
（新潟医療福祉大学）

【研究成果の要旨】

本研究では、デンマークにおける従前学習認証の動向、そしてノンフォーマル成人教育における取り組みを明らかにした。『成人教育・継続訓練における従前学習認証と発展法』の制定以降、政府は、認証の推進のために、労働組合や雇用者連盟といった社会的パートナーと協定を組み、オンラインポートフォリオの設置や認知度向上のキャンペーン等を行い、主に基礎的な職業教育・訓練分野で広がりを見せている。しかし、教育機関間での連携、認知度、仕組みの簡略化、予算等に課題を抱えている。一方、ノンフォーマル成人教育機関が、政府と協働または各機関で独自に、ポートフォリオの開発、学習により身に付く資質・能力を可視化し共有する取り組みも明らかにした。多様な教育機関がボトムアップ型で従前学習認証のシステムを構築していく在り方への示唆を得ることができた。

１．研究の目的

近年の欧州各国では、知識基盤社会に向けた国際競争力の強化、そして社会的に周縁に置かれた人々を包摂する生涯学習政策が意図されている。その中で、ノンフォーマル、インフォーマルな学習経験を社会的に認証し、個人のキャリア形成に活用する仕組みづくりが重要な施策に位置付けられている。例えば、欧州職業訓練開発センター（European Centre for the Development of Vocational Training:CEDEFOP）は『ノンフォーマル学習およびインフォーマル学習の認定のための欧州ガイドライン[1]』を、経済協力開発機構（The Organisation for Economic Co-operation and Development:OECD）は『ノンフォーマル、インフォーマル学習の認証：成果、政策、実践[2]』を発行し、多様な学習・社会経験を認証する制度としての「従前学習の認証」に着目している。

また国際標準化機構（International Organization for Standardization:ISO）が2010年に『非公式教育・訓練のための学習サービス：サービス事業者を対象とした基本的要求事項（ISO29990）』を発行し、国際規格による学習サービスの国際基準化を進めていること等[3]、多様な学習を認証すること、そして学習の質の保証、評価をめぐる動きは活発化していると言えよう。

そこで本研究では、デンマークの生涯学習に近年導入されている「従前学習認証（Realkompetence：Recognition of Prior learning）」に焦点をあて、その目的、導入の過程と実践の動向を明らかにすることを目的とする。

成人の学習参加率が欧州で最も高い国であるデンマークは、19世紀以来、北欧をはじめ東欧や北米、日本、そして途上国での民衆教育運動に大きな影響を与えた、一切の学習評価を行わない全寮制の成人教育機関フォルケホイスコーレ(Folkehøjskole)をはじめとして、多数のノンフォーマル成人教育機関が組織されている国である。そのデンマークにおいても、欧州連合(European Union :EU)や国際機関の影響を受ける形で、仕事や余暇活動、ボランティア活動を含むあらゆる経験、学習活動を評価し認証する「従前学習認証」が導入されてきている。

本研究は、「従前学習認証」の実践の具体的内実として、政府や成人教育協会の行っている推進に向けた取り組みの現状と課題について明らかにする。また、具体的にどのような資質・能力を可視化し認証していくことを支援しているのかも明らかにし、我が国の学習成果評価システムの具体的構築に貢献しようとするものである。

2．研究の方法

研究の方法としては、主に文献調査と現地におけるインタビュー等のフィールドワークを行う。まず、文献調査では、デンマークでの先行研究、政策文書、教育省や関連機関の発行資料から、デンマークの「従前学習認証」に関する制度、政策を整理する。また、従前学習の概念や目的、デンマークにおける導入過程を明らかにする。次いで、国立従前学習評価知識センター(Nationalt Videncenter for Realkompetence:NVR)の発行資料、各成人教育協会発行資料の分析を通して、各成人教育機関での従前学習の実践内容、動向を分析する。フィールドワークに関しては、デイホイスコーレ(Daghøjskole)、生産学校(Produktionskole)といった各成人教育協会、デンマーク成人教育協会(Dansk folkeoplysnings Samråd)、国立従前学習評価知識センターに対してヒアリングを行う。

3．研究成果

本研究の成果について、まず従前学習認証の概要について述べ、次いでデンマークにおける従前学習認証の導入と展開について考察し、最後にノンフォーマル成人教育における取り組みについて明らかにしていく。

(1)従前学習認証の概要

1)従前学習認証の基本的コンセプトと各国での展開

従前学習認証とは、学位や資格等のフォーマルな証明を持たないものでも、どのように、どこで習得したかは関係なく(ノンフォーマル・インフォーマル)、ある人が既に学習し持っている知識、技能そして資質・能力に認証を与えるものである。またその基本的なコンセプトとしては、「成人教育を促進してくためには、人々に最初から学習させるのではなく、人々が既に持っている知識や技能について評価・認証され、適切な段階から学習を受けられることが大切である」と

いう考えに基づいている。【表1】のように、名称は多少異なるがオーストリア、カナダ、ノルウェー、ドイツ等20か国以上で展開されている[4])。

国名	従前学習認証について使用されている用語
オーストリア	ノンフォーマル・インフォーマル学習の認証
オーストラリア	RPL（Recognition of Prior Learning,これまでの学習の認証）
ベルギー	習得された能力もしくは知識の認証
カナダ	PLAR（Prior Learning Assessment and Recognition,これまでの学習の評価・認証）以前は、PLA(Prior learning Assessment)
チリ	専門的能力の公的な認証
チェコ	追加的な教育結果の妥当性検証と認証
デンマーク	本物の能力、真の能力の認証　Realkompetence
ドイツ	ノンフォーマル・インフォーマルな方法で習得した知識・スキル・能力の承認、「ノンフォーマル・インフォーマル学習の認証」
ハンガリー	これまでの学習の評価、RPL
オランダ	EVD（習得された能力の認証）、公教育以外で習得された資格等
ノルウェー	公式・ノンフォーマル・インフォーマルな能力の文書化と妥当性検証
スイス	公教育と経験による学びの妥当性、習得されたことの妥当性検証
イングランド	APL(Accreditation of Prior Learning,資格認定のための認証目的に重点を置いたすべての学習の認定)、APEL（Assessment of Prior and experiential Learning、経験に重点を置いた、過去の経験による学習の評価)、AP(E)Lと表記する場合、APLとAPELの組み合わせを意味する。APCL(Accreditation of Prior Certificated Learning,これまでに成果が証明された学習の認定、大学における免除項目を表す場合に使われる)、RARPA(Recognising and recording Progress and Achievement in Non-accredited Learning,Non-accredited Learningとはノンフォーマル学習を指す)

【表1】従前学習認証の各国での名称

出典：OECD編著、山形大学教育企画室監訳、松田岳士訳『学習成果の認証と評価：働くための知識・スキル・能力の可視化』、明石書店、2011年、p.61の表を一部修正。

2）従前学習認証のプロセス

従前学習認証は、基本的に次のような段階を経て行われる（【表2】参照）。まず、①ある人が何を知っているか、または実行することができるかを特定（記録）し、②何を知っていて、何ができるかを証明（自己評価、外部評価含む）する。次いで、③知っていることやできることが、要件・特定の評価基準・標準を満たしているかの妥当性の確認がなされる。妥当性が認められれば、④知っていることや、できることが特定の要件を満たすことを公に述べ、それを証明する文書が授与され認定される。そして、⑤知っていることや、できることを示す証拠が社会から受け入れられる（社会的な認証）ことが最終段階である。

段階	定義・内容
特定	ある人が何を知っているか、あるいは何ができるかを特定し、可能であれば記録すること
証明	ある人が何を知っているか、あるいは何ができるかを証明すること。
妥当性検証	ある人が何を知っているか、あるいは何ができるかを証明することによって、ある要件を満たしているかを検証すること
認定	ある人が何を知っているか、あるいは何ができるかについての要件を満たしていることを明確に掲示し、それを証明する文書を授与すること
社会的認証	ある人が何を知っているか、あるいは何ができるかを示す証拠が社会から受け入れられること

【表2】従前学習認証の段階
出典：OECD編著、山形大学教育企画室監訳、松田岳士訳『学習成果の認証と評価：働くための知識・スキル・能力の可視化』、明石書店、2011年、p.60の表を一部修正。

ここで、従前学習認証で具体的にどのような手続きを経るのかを理解するために、デンマークでの具体的な事例を紹介する[5]。トーマス・バーグ(Thomas Berg)氏は、熟練した配管工であり、認可された配管工・エンジニアとして自分で事業を開始したいと考えていた。彼は最寄りの高等教育機関である専門アカデミーに連絡をとり、認可された配管工となるための2年間コースについて、そしてコースでの学習期間を短縮する方法に関する情報を得て、これまでの経験、学習を認証してもらう手続きを開始した。

①従前学習の文書化・収集
- これまでの学校教育や訓練での学習、訓練の修了証明を文書化
- 労働経験や配管工としての技能、資質、そしてスポーツ協会でのコーチトレーニングの履修経験を文書化

②HVACコース（認可配管工コース）入学のための申請
- 希望しているコースへの応募（及び教育・訓練短縮の出願）
- 関連スキル・能力の文書化と提出

③ガイダンス面接と能力評価（1日）
- 提出された文書、評価の審査
- 品質管理と原価計算に関するテスト
- 最終面接と単位のための総合評価

④トーマス・バーグ氏の従前学習の認証（下記の内容が認められた）
基礎IT技能、特定技術学習コースの学位・コース修得、見積もり・品質管理・会計分野での仕事経験と能力、デンマーク体操スポーツ協会でのコーチトレーニング

⑤HVACコースを20週間分短縮

このように、ガイダンスや助言を受けながら、これまでの経験（学歴、仕事歴、また余暇時間での経験等）と、保有している技能、能力について文書化し、応募書類と共に認証の申請を行う。その内容について書類、テスト等で審査をされ妥当性が検証される。その後、これまでの学習経験、能力からコース短縮に適用できる内容、項目が決定される。

また、従前学習認証のキーワードは、「可視化」と「文書化」である。ノンフォーマル・インフォーマル学習で学んだことを認識させるため、そして既に知り、身につけている内容を一からやり直すことを避けるために「可視化」し、「文書化」することが重要であり、例えば学習ポートフォリオやコンピテンスパスポートがその方法として活用されている。

3）従前学習認証による利益

次に、従前学習認証を行うことにより、個人や社会にとってどのような利益があるのか、そして各国での現状を述べる。

従前学習認証の利益としては、①経済的利益、②教育的利益、③社会的利益、④その他個人的利益があるとされている[6]。

まず①経済的利益に関しては、公教育によって資格を修得する際に必要な時間を短縮でき、公教育での学習に伴う直接費用や機会費用を削減できる点が挙げられる。また、能力、スキルを可視化させ、労働市場における人材と仕事のマッチングを促進させることができる点、何より個人が学習にかける時間と費用を節約することができる点が挙げられる。

②教育的利益については、人々が自分自身の関心ある分野や自身の強みについて気づき、生涯学習により自分のキャリアを開発することを支援できる点が挙げられる。また、個人的な経験を学習成果として認めることで、学習への新たな道を提供することができる。例えば、これまでの伝統的なルートでは高等教育に入学できなかった人に、入学する道を提供することにもなりうる。

また③社会的利益については、社会的に不利な立場にいるマイノリティグループ、不平不満を抱いている若者、若い頃に公的な学習の機会を多く持たなかった高齢の労働者に再チャレンジの機会を与えることができる。

最後に、④その他個人的利益については、個人の動機づけを支援する点が挙げられる。特に③とも関わるが、公的な教育や労働市場のシステムから脱落し、自分自身を「何も知らないし何もできない」と認識している人々に、本人が知識・能力を持ち、「自分でも何かできる」という自尊心と自信を得る機会となる点が挙げられる。

従前学習認証について、以上のような利益が考えられている。一方で、各国での実践においては、多様な政策や施策にも関わらず、認証プロセスが不十分であり、小規模で不安定なままであるという現状が示されており、課題としては、①認証に対する認知度を高めること、②認証プロセスを簡略化すること、③有効性を増すこと、④利益とコストのバランスを見出すことが挙げられている[7]。

柳田（2004）によるイギリスにおける学習経験および既習得技能・能力等の単位認定に関する考察でも、「量的にも少ない限定された事例が紹介されているに過ぎない[8]」とされ、課題として、能力・技能を証明する証拠固めに非常に手間がかかる点、評価の判定時間に時間がかかる点、実施現場での協力体制が不十分な点、実際に認証が上手く認められるケースが少ない点、認証を受けようとする志願者が少ない点、ずさんな認証により、全国職業資格の取り消しが生じた事例等、質の保証に関する点が挙げられている。

では、デンマークにおいて、従前学習認証はどのように導入され、展開しているのであろうか。

(2)デンマークにおける従前学習認証の展開

1)デンマークにおける近年の生涯学習政策と従前学習認証

デンマークにおいても、2000年に開催された欧州連合のリスボンサミット（Lisbon Summit）以降、成人教育に対する政治的関心が高まり、生涯学習が教育政策の主要なテーマとなっている。例えば、デンマーク政府は『デンマークの成長戦略(The Danish Growth Strategy)』(2002年)、『デンマーク政府の知識戦略：成長の中の知識(The Danish Government’s knowledge strategy-knowledge in growth)』(2003年)、『前進、革新、結束、グローバル経済におけるデンマークの戦略(Progress, Innovation and Cohesion. Strategy for Denmark in the Global Economy)』(2006年)を発行し、教育省は、『より良い教育：アクションプラン(Better Education)』(2002年)、『デンマークの生涯学習戦略(Denmark’s Strategy for lifelong learning. Education and lifelong skills upgrading for all)』等を発行している。

Anne Larson(2011)は、これらを含む2000年代のデンマークの生涯学習政策の特徴として、①生涯学習が知識基盤社会に向けた経済成長の手段と見なされている点、②職業訓練に方向付けられた成人教育及び成人の識字教育に焦点が当てられている点、③自由成人教育の経費が削減されている点、④従前学習認証とガイダンスに焦点化している点、⑤生涯学習とシティズンシップ、社会的結束が強調されている点を挙げている[9]。このように、従前学習認証は、デンマークの生涯学習政策の中でも重要なものとして位置づけられている。

続いて、デンマークの教育制度を概観した上で、従前学習認証の導入過程を見ていきたい。デンマークの教育制度は、普通教育制度と成人教育制度に大別されており[10]、各教育段階が対応していることが特徴である（【表3】参照）。

従前学習認証に関わる政策としては、単位交換の基本的な形は既に1997年に職業訓練に導入され、2001年に基礎成人教育(GVU)、2003年に成人職業訓練プログラム（AMU）へと拡充されてきていた[11]。それが、2004年に教育省、科学技術革新省、文化省、経済企業省による『教育制度内の従前学習の認証(Recognition of Prior Learning within the education system)』が議会で承認され、仕事や余暇、ボランティア活動といったノンフォーマルやインフォーマル学習で身に付

<table>
<tr><td>博士後期課程</td><td colspan="4" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>修士課程</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学士課程</td><td rowspan="2">専門学士課程</td><td rowspan="2"></td><td colspan="3">修士課程</td></tr>
<tr><td colspan="3">学士課程</td></tr>
<tr><td colspan="3">アカデミー専門学位</td><td colspan="3">アカデミー専門学位(VVU)</td></tr>
<tr><td colspan="6">高等教育</td></tr>
<tr><td colspan="2">普通後期中等教育</td><td colspan="2">職業教育・訓練</td><td>高等予備試験単科課程（HF）</td><td>基礎成人教育(GVU)</td><td>成人職業訓練プログラム(AMU)</td></tr>
<tr><td colspan="6">後期中等教育</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">初等・前期中等教育</td><td>普通成人教育(AVU)</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>予備成人教育(FVU)</td></tr>
<tr><td colspan="3">初等・前期中等教育</td><td>普通成人教育</td><td colspan="2">成人職業教育訓練</td></tr>
<tr><td colspan="3">普通教育制度</td><td colspan="3">成人・継続教育制度</td></tr>
</table>

【図1】デンマークの普通教育制度と成人教育制度の対応

出典：Andersen, M., &Laugesen, C, Danish Evaluation Insitute, (2012), p.2の表を筆者翻訳。

けた能力も単位互換の対象として重要視されるようになった。

そして2007年の『デンマークの生涯学習戦略』においても、従前学習認証の重要性が強調され、『成人教育・継続訓練における従前学習認証と発展法(Udbygning af anerkendelse af realkompetence på voksen og efteruddannelsesområdet mv):No556』が制定された。この法律により、従前学習認証は成人教育の分野において、普通成人教育(AVU)、高等予備試験単科課程、アカデミー専門学位(VVU)、学士課程、ノンフォーマル成人教育やインフォーマルな学習経験も対象となった。

またデンマークの従前学習の認証は次の7つの原則に基づいている[12])。

1．個人は、各教育領域内で適用できる法や枠組みに基づき、自身の従前学習の認証を求めることができる。
2．個人はまた、自身の従前学習の文書化に貢献する責任を負う。
3．能力評価のための使用料は、低技能の人々を除いて有料でも良い。
4．能力評価は、常に当該教育プログラムの目標及び入学要件に基づくべきである。
5．個人の能力は、どこで、どのように習得したかに関わらず認証されるべきである。但し、教育・訓練プログラムの質を落とさない範囲で。
6．評価の手法は、信頼性のあるものでなくてはならない。
7．評価の結果は、証明書の発行により文書化されるべきである。

ここまで、デンマークにおける従前学習認証に関わる政策の動向を概観してきた。次いで、デンマークでの従前学習認証を推進するための取り組みについて考察していく。

2)従前学習認証の推進のための取り組み

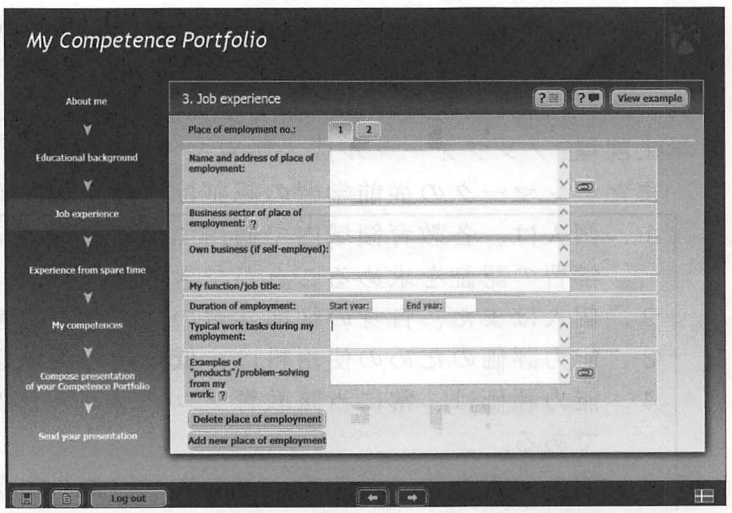
デンマーク政府は、法律の制定と共に、従前学習認証を実行していくために以下の取り組みを行った[13]。まず、①従前学習認証を推進していく協定を社会的パートナー（労働組合や雇用者連盟、専門職連合等）と締結した。

次いで、②ケーススタディや「従前学習認証を行う10の理由」等がセットになったキットを活用し、従前学習認証に関する情報とネットワーキングキャンペーンを、オフィス従業員、管理職、企業での訓練担当者、教育・職業訓練機関担当者を対象に実施した。また職業訓練プログラムを修了した25,000人に、教育省大臣からのお祝いと従前学習認証を勧める手紙が届けられた。そして③オンラインスキルポートフォリオ「マイコンピテンスマップ（Minkompetencemappe)」を開設した[14]。このサービスで、利用者はこれまでのフォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルでの学習経験を記入し、自己評価をする。また経歴や能力を証明する資料を保存しておくことが可能である。さらに、企業や教育機関が、従前学習認証を活用するためのフォーマットも用意されている。

他にも、デンマーク政府は従前学習認証の推進のために、④成人教育や継続教育機関向けのハンドブックの作成・配布、⑤国立従前学習認証知識センターの設立、⑥TV、研修やセミナー等でのPRを実施した。

ここでは、その中でも「マイコンピテンスマップ」の具体的な内容を示す（【図2と図3を参照】)。まず冒頭で、市民、企業、またカウンセラーといった利用者の選択と、それぞれに利用できるサービスが示されている。市民の場合には「教育・訓練プログラム」「能力の評価」「仕事検索」「その他」から選択し、氏名、住所等の基礎的な個人情報と、学歴、学習履歴等を記載していく。証明書その他関連した電子ファイルをアップロードして蓄積していくことも可能である。

次いで職歴について、どの組織でどれだけの期間、どの業務に従事していたかを記載する。

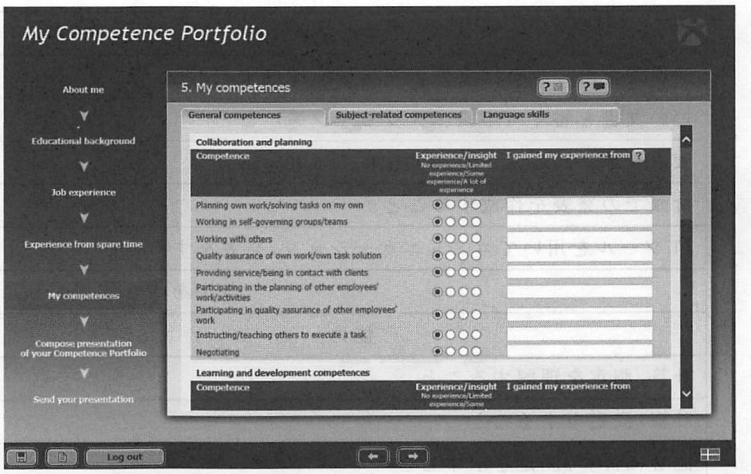


【図2】MinKompetencemappe使用例①

出典：https://minkompetencemappe.dk/、2015年9月5日参照。

特徴的な点として、余暇時間での学習経験を記載する欄があり、フォルケホイスコーレやデイホイスコーレといったノンフォーマルな成人教育での学習経験や、ボランティア活動や余暇活動での学習経験とその期間について記載することが挙げられる。

最後に「私の能力」という欄では、【表3、表4】に記した能力項目についての経験の度合いを4つの選択肢から選択し自己評価する。



【図3】MinKompetencemappe使用例②
出典:https://minkompetencemappe.dk/、2015年9月5日参照。

能力のカテゴリーは「協力と計画」、「学習・開発能力」、「コミュニケーション・プレゼンテーション」、「数字を扱う能力」、「IT能力」と分類され、それぞれに能力項目が記されている。またその経験をどのような場、機会で身に付けたのかも記載する。さらに、「職務上の能力・技能」、「言語能力」についても記載する。

協力と計画		
能力	経験度合	経験を得た機会
自分の仕事、業務を計画すること/自分の課題を解決すること		
自治の集団・チームで働くこと		
他者と一緒に働くこと		
自分の仕事の質を保証すること		
サービスを提供する/顧客と連絡をとること		
他の従業員の仕事を計画することに関与すること		
他の従業員の仕事の質を保証することに関与すること		
業務を遂行するため他者に指導すること		
交渉すること		
学習・開発能力		
能力	経験度合	経験を得た機会
新しい領域に慣れること		
情報を探すこと		
課題の改善案を思いつくこと		
課題を解決する新しい方法に参画すること		

【表3】Minkompetencemappe内「私の能力」欄での資質・能力項目①
出典：https://minkompetencemappe.dk/を2015年9月5日に参照。

コミュニケーション・プレゼンテーション		
同僚が理解できる議事録・報告書を作成すること		
短い文書を書く（手紙、メッセージ等）こと		
大人数の集団に対する文書を書くこと		
口頭での発表を作成すること		
ITツールを用いてコミュニケーション/発表をすること		
数字を扱う能力		
能力	経験度合	経験を得た機会
計算/測定を理解すること		
計算/測定をすること		
他者に計算/測定を示すこと		
IT能力		
能力	経験度合	経験を得た機会
文書作成・文書処理		
会計管理		
画像処理		
データベース		
インターネット/eメール		
プレゼンテーションプログラム（パワーポイント等）		
表計算ソフト		

【表4】Minkompetencemappe内「私の能力」欄での資質・能力項目②
出典：https://minkompetencemappe.dk/を2015年9月5日に参照。

なお、このマイコンピテンスマップは、EUの履歴書(Curriculum Vitae:CV)の内容を基本的な原型としてデンマーク版に改良したものである[15]。またデンマーク語だけでなく英語でも使用することができ、登録は無料である。このようなツールも用いながら、デンマークでは従前学習認証の推進に向けた取り組みが行われている。

また、デンマーク成人教育協会は、自身のウェブサイトでも積極的に利点を強調していることも含め、従前学習認証を推進している立場である。従前学習認証の社会における利点、そして労働市場における利点として、①公的資金を抑え、コスト効率が上がる点、②必要とされる技能・能力に応じ、労働市場の柔軟性と変化を支援する点、③個人の能力がますます重要になる点、④社会的結束や包摂を促進する点を挙げている[16]。また、個人にとっての利点として、①自信、エンパワーメントや気づきを生む点、②自身の能力への明確な表現は、労働市場において自分を売り込む「強み」となる点、③生涯学習の動機づけになる点、④時間とお金の節約になる点を挙げている。

(3)従前学習認証の活用の現状と課題

次に、デンマークにおける従前学習認証活用の現状について示す。【表5】に示したように、デンマークのフォーマル成人教育における従前学習の認証は、主に基礎成人教育（GVU）や、成人職業訓練プログラム（AMU）といった、基礎段階の職業教育・訓練で活用されている傾向がある。一方で普通成人教育（AVU）の分野や高等教育段階（VVUや学士課程）ではあまり広がっていないことがわかる。

また、従前学習認証の活用は、労働市場への移行・参加のためにではなく、より上位段階の教育機関への進学のために活用されている傾向があるという[17]。

	普通成人教育課程（AVU）N=27	高等予備試験単科課程（HF）N=27	成人職業訓練プログラム（AMU）N=93	基礎成人教育（GVU）N=63	アカデミー専門学位（VVU）N=28	学士課程 N=18
2009年に従前学習の認証を最低1回でも活用した機関の割合	42%	70%	71%	91%	29%	50%
一般の人々の認知度と知識の欠如が従前学習の拡大を阻害する要因	96%	96%	85%	82%	86%	80%

【表5】デンマークの従前学習認証活用の動向

出典：Andersen,M.,&Laugesen,C,Danish Evaluation Insitute,(2012),p.5およびp.7の表より筆者作成。

そして、従前学習認証の展開の阻害要因としては、①認知度の低さ、②予算の不足、③企業での能力開発を従前学習認証に結びつける困難性、④従前学習をフォーマル教育で活用することの困難性、⑤従前学習の認証を活用することへの関心の低さ、⑥従前学習認証の仕組みの複雑さが挙げられている[18]。

国立従前学習認証知識センターの資料[19]）でも、従前学習認証の展開における課題のキーワードとして①経済面、②組織の固定化、③教員の態度、④専門家の能力開発、⑤部門を越えた協力、ステークホルダーの協力が挙げられている。

上述したように従前学習認証の利点を挙げているデンマーク成人教育協会も、課題として、①従前学習認証の取り組みの数が少なく、一般の人々の間で認証の認知が低い状況、②従前学習認証をする際の文書化等を進める際のガイダンスや助言が不足している点、③共通した国家的なアプローチがなく、(良くも悪くも)分権的な実践が行われている点、④共通した標準的な手続きがない点、⑤部門間や教育機関の信用が不足している点、⑥経営者（雇用者）や被雇用者は従前学習

認証と、日々の企業での業務に関連した学習ニーズに関心があるが、従前学習認証の仕組みは、フォーマル教育での評価に基本的な焦点を当てており溝がある点、⑦教育制度内において、従前学習認証への関心、意欲、そして予算が不足している点を挙げている[20]。

OECDの調査で、多くの国が認証のシステムを整えようとしているにもかかわらず、多くのケースで認証プロセスが不十分、小規模、不安定である状況が示されていたが[21]、この状況はデンマークにもある程度当てはまり、導入が円滑に進んでいるとは決して言えないことがわかる。

こうした状況に対して、教育省は2010年にアクションプランを作成した。その中では、①従前学習認証前のガイダンス・助言を緻密に計画し配置すること、②仕事や雇用に焦点を当てた従前学習認証の可能性を分析すること、③簡易化・標準化そして質保証、④従前学習認証の経済的な状況を調べること、⑤一般の人々と関係者の認証に対する認識を高めるキャンペーン等が挙げられている。

そして2012年から2014年までの戦略として、①地域での情報キャンペーンと活動、②成人職業訓練プログラム(AMU)との取り組み、③普通成人教育課程(AVU)と高等予備試験課程（HF）との取り組み、④高等教育段階（VVUや学士課程）との取り組みを展開している[22]。

(4)ノンフォーマル成人教育機関等での取り組み

1)フォルケオピュリスニングコンピテンシーにおける能力の項目

従前学習認証において、2007年の『デンマークの生涯学習戦略』内で、ボランティアセクターや余暇活動、ノンフォーマル成人教育との連携、導入が述べられている。そして、ボランティアセクター、余暇活動等で経験され習得した資質・能力を、個人が認識し文書化することを支援するオンライン・ツールを3つ設けている[23]。ここでは、その中でも自由成人教育での学習経験に焦点を当てた「フォルケオピュリスニングコンピテンシー（Folkeoplysningskompetencer)」の内容を明らかにする。

この「フォルケオピュリスニングコンピテンシー」は、南デンマーク大学（Syddansk Universitet）の知識ラボ（Knowledge Lab）等が2007年に開発した「Eツール」や「能力ゲーム」を基に、文化省(Kulturministeriet)、デンマーク成人教育協会、デイホイスコーレ協会(Daghøjskoleforeningen)、国立従前学習認証知識センターが2014年に改良したものである。

「フォルケオピュリスニングコンピテンシー」内には、3つのツールが用意されている。まず①各人のこれまでの学習経験、資質・能力を可視化し、言語化することを支援する「能力カード」と、②3－6人用の娯楽・教育的ゲーム「能力ゲーム」、そしてそれらのツールで可視化し言語化した個人の学習経験、資質・能力を、文章化してまとめる③「Eツール」である[24]。

対象となる学習経験は、自由成人教育でのコースでの学習を対象としており、具体的にはアッフンスコーレ(Aftensskole)、フォルケホイスコーレ、デイホイ

スコーレ、生産学校、エフタスコーレ(Efterskole)、自由専門学校(Frifagskole)、オープンユニバーシティ(Folkeuniversity)、若者学校(Ungdomskole)、が挙げられている[25]。以下、その内容を見ていくこととする（【表6と7を参照】）。

社会的能力	組織運営能力
キーワード：他者についての感じ方 開放性、信頼、共感、責任、協力、ケア	キーワード：何の活動・プロジェクトが組織されているか、イニシアティブ、概観、計画、交渉、協力、意思決定、動機づけ
万事順調か確認する	どのように活動・プロジェクトが始まり、動いているかを理解する
対立を解決することを支援する	活動・プロジェクトの計画が好きである
他者の意見を聞く	活動・プロジェクトのゴールを設定する
他者の状況を理解しようと努める	活動・プロジェクトの計画・実行に慣れている
本当に好きな誰かと活動する	即座に、多くの物事について概観を得る
他者と一緒に問題解決を上手に行う	誰が何について得意かを見分けることができる
協力して作業を行う	どのように課題解決をするか合意を得る
自分とは異なる背景を持つ他者を頼りにする	他者の参加を促すよう動機づける
関係を維持し、連絡をとる	プロジェクトの成功に重要な知識を得られる
調和を生むことの手助けをする	他の組織と協力する
自己管理能力	**コミュニケーション能力**
キーワード：個人的責任を引き受ける、イニシアティブ、自己認識、計画と優先順位づけ、粘り強さ、貢献	キーワード：快活に他者とコミュニケーションする能力、開放性、信頼性、構築能力、ボディランゲージ
進んで課題解決に取り組む	他者と話をすることが好きである
自己の強みと弱みを認識している	良い聞き手である
課題をいつ、どのように解決すべきか計画をたてる	自分の考えや気持ちを表現するために意識的に身体を使う
当事者意識をもち、さらなる努力への準備もできている	約束を守るよう努める
自己を高みに挑戦させる	他者と話す際、はっきりと話す
意思決定が得意である	明確にはっきりと書く
自分がいつ他者の助けが必要かを理解している	大人数の集団内で勇気を出して発言をする
目的と計画を持ち活動する	異なる聴衆への適切な演説方法を考えている
優先順位づけすることが得意である	適切なコミュニケーション方法を考えている
自分の努力を現実的に評価することができる	自分のコミュニケーションが理解されているかチェックするよう努めている

【表6】フォルケオピュリスニングコンピテンシーの能力項目①
出典：http://www.folkeoplysningskompetencer.dk/index.php を2015年9月5日に参照。

異文化間能力	創造・革新能力
キーワード：差異を越えて理解し活動すること、他者の文化への理解、開放性、共感	キーワード：アイディアを得る、前向き、好奇心、調査好き、不屈、没頭、共感
多様性が果たす役割について理解している	視点を枠の外に持っていく
自分とは異なる人々に興味がある	制限の代替可能性を模索する
他者が私たちの文化をどのように受容しているか聞くことに興味がある	新しい物事、手法についてのアイディアを得て、試すことができる
自分とは異なる背景を持つ他者への対応に慣れている	間違いから学ぶ
違いを橋渡しすることに貢献する	他者のアイディア、考えに開かれている
自文化の独自性への認識を持っている	諦めず他のやり方に挑戦する
差異を越えて団結させるものに焦点をあてる	変化を歓迎している
多様性が成長に寄与することを理解している	新しい状況に知識を適用することができる
尊敬と寛容に貢献する	新しいゴールとビジョンを構築する勇気がある
他者との出会いの中で自分の態度や人生が変わる可能性に対して、自己が開かれている。	情熱的、前に進む雰囲気をつくる
学習能力	**民主的能力**
キーワード：好奇心、根気、体系、真剣な考察と分析、試すこと、関与	キーワード：民主的な意思決定の方法を理解している、民主的権利を行使すること、社会に対しての洞察を持っている、開かれた議論と対話、包摂性、コミットメントと自発性
学習への好奇心がある	政治的生活に社会的に関わりを持っている。
困難であっても諦めない	民主主義がどのように機能するか知っている
学習した内容で何が新しいことか気づく	選挙の際には投票する
過去に得た知識と新しい知識を結合する	他者と社会の組織について議論する
自分にとっての最良の学習方法を知っている	自分が同意できず不幸せな社会状況を変えるために動く
新しい方法での学習に対して開かれている	他者と共に社会をより良くするための考えを発展させる
学習したい内容についてのゴールを持っている	民主的なルールを知り敬っている
自分、そして他者から学ぶことができる	社会や教育の場で、信頼に基づいた地位に選ばれている
全ての知識や情報が正しいとは限らないことを知っている	コミュニティのために日々の大小に責任を引き受ける
学習した内容を新しい状況で使用する	異なる生活スタイルに対して敬意を持っている

【表7】フォルケオピュリスニングコンピテンシーの能力項目②

出典：http://www.folkeoplysningskompetencer.dk/index.php を2015年9月5日に参照。

フォルケオピュリスニングコンピテンシーの特徴としては、【表6】や【表7】に示したように、能力についてのカテゴリーとして「社会的能力」、「組織運営能力」、「自己管理能力」、「コミュニケーション能力」、「異文化間能力」、「創造・革新能力」、「学習能力」、「民主的能力」という8つを挙げ、各カテゴリーにつき10項目の能力について5段階で自己評価を行う中で、自身のソフトスキルについて自覚できるようになっている点である。

そして、上述した「リアルコンピテンスマップ」での資質・能力項目よりも、非常に多様なカテゴリーがあり、能力の項目も豊富で、且つ具体的な内容となっている。

2)従前学習認証に関するポートフォリオの開発と教員の研修

失業者や移民を支援するデイホイスコーレでは、政府による積極的な認証の推進以前から、デンマーク成人教育協会に属する他の教育機関との協働で、従前学習認証に取り組んでいる[26]。具体的には、社会的能力、対人関係能力、学習能力、責任感といった能力の可視化、文書化の方法を模索し、2003年から独自のポートフォリオを開発・実践している。また2007年には、デンマーク初の従前学習認証に関する教員の研修を、フォルケホイスコーレ協会(Folkehøjskolernes Forening i Danmark) や生産学校協会(Produktionsskoleforeningen)やデンマーク教育大学(Danmarks institut for pædagogik og Uddannelse)等との協働で行っている。

3)生産学校協会による従前学習認証における能力項目標準化の試み

生産学校は、早期に教育・労働市場のいずれからもドロップアウトした16歳～25歳の若者を対象とした「社会的包摂」「再チャレンジ」のための教育機関である。生産学校の教育方法には、為すことによって学ぶ(Learning by doing)ことが基盤にある。教員と学生たちが複数人で協同プロジェクトに従事し、顧客に対するサービスの提供や、製品の製作、販売を行う実践的な活動を行っている。

生産学校協会の従前学習認証への姿勢について、担当者へのインタビューから3点が明らかになった[27]。まず、生産学校協会は、従前学習認証を積極的に活用し促進する姿勢であり、主に教育のツールとして重視していることが明らかになった。具体的には、従来、生産学校では学習者本人が何を学習し、どのような能力・資質をどれくらい伸ばすことができた（ている）のか把握しにくい側面があった。従前学習認証を活用することで、何を学習し、どのような能力・資質を伸ばした（ている）のかを「可視化」することができる点に利点があると考えている。また生産学校の側にとっても、自分たちが提供しているプログラムに、どのような意義があり、どのような能力、資質を育んでいるのか明確化することで、他者に説明する際や自身の実践を省察する際に活用できる点も評価している。

2点目として、生産学校協会では従前学習認証を促進するために、生産学校の教職員を対象に「生産学校における能力証明の実施」について研修を行っている点も判明した。

3点目に、生産学校協会は、各生産学校が従前学習認証に取り組むことを促進することを目的として「生産学校において育まれる能力・資質」についての標準的なカテゴリーを作成している。また実践において各資質を評価する際に活用できる評価規準や、形式の大枠を作成している。

なお、生産学校協会の取り組みの詳細については、拙稿「デンマークの生産学校における従前学習の認証に対する取り組み:生産学校協会による取り組みに着目して」『早稲田大学教育学会紀要』16号にて掲載済みである[28]。

4．むすびに

本研究では、デンマークにおける従前学習認証の動向、そしてノンフォーマル成人教育における取り組みを明らかにした。『成人教育・継続訓練における従前学習認証と発展法』の制定以降、政府は、認証の推進のために、労働組合や雇用者連盟といった社会的パートナーと協定を組み、オンラインポートフォリオの設置や認知度向上のキャンペーン等を行い、主に基礎的な職業教育・訓練分野で広がりを見せていることが明らかになった。しかし、推進に際して、教育機関間での連携、認知度、仕組みの簡略化、予算等に課題を抱えている現状も浮かび上がった。一方で、ノンフォーマル成人教育機関が、政府と協働または各機関で独自に、ポートフォリオの開発や学習により身に付く資質能力を可視化し共有する取り組みも明らかにした。

但し、今回の研究では、政府の推進施策について、主に2010年までを取り上げたに過ぎない。現在では、本研究でも示した推進への課題に対応する形で、2014年までの推進施策の実施と検証、そして今後の施策が検討されている。これらの具体的内容と効果を引き続き研究していく必要がある。

また、ノンフォーマル成人教育機関での取り組みについても、まず、フォーマル教育での取り組みとの差異を明らかにし、次に、デイホイスコーレが開発したポートフォリオの活用方法や、各生産学校で行われている従前学習認証の活用方法等、各成人教育機関での具体的な活用例を今後も引き続き研究していく必要がある。

謝辞

本研究は、2013年度日本生涯教育学会研究助成（研究テーマ「デンマークの生涯学習における学習成果の評価『事前学習』に関する研究：ノンフォーマル成人教育での実践に着目して」の援助を受けて実施したものであり、ここに謹んで感謝の意を添えます。

注記・参考文献

[1] CEDEFOP, *European Guidelines for the Validation of Non-formal and Informal Learning*. Office for Official Publication of the European Communities, Luxemburg, 2009.

[2] OECD, *Recognising Non-Formal and Informal Learning:Outcomes, Policies and Practices*. OECD, 2010（OECD編著、山形大学教育企画室監訳、松田岳士訳『学習成果の認証と評価：働くための知識・スキル・能力の可視化』明石書店、2011。

[3] 宮澤賀津雄、中村公美、野島久雄「生涯学習とISO(非公式教育・訓練サービスの国際標準)」(『日本生涯教育学会年報』日本生涯教育学会、第32号、pp.3-20、2011) p.17。

[4] OECD編著、前掲著、p.61。

[5] The Danish Ministry of Education, The Danish Ministry of Science, Technology and Innovation, The Danish Ministry of Culture and The Danish Ministry of Economic and Business Affairs, *Recognition of Prior Learning within the education system:Danish Government policy paper presented to the Parliament(English version)*. Danish Ministry of education, 2005, p.12.

[6] OECD編著、前掲著、pp.68-69。

[7] 同書、p.22。

[8] 柳田雅明『イギリスにおける「資格制度」の研究』多賀出版、2004、p.235。

[9] Larson, A, *Lifelong Learning-From Europe policy to national legislation*, (paper presented at the ECER conference in Berlin, 2011), pp.14-24.
(http://pure.au.dk/portal/files/42095617/ECER_2011_A_Larson.pdf、2015年9月5日取得。)

[10] Andersen, M., &Laugesen, C, Danish Evaluation Insitute(EVA), "Recognition of Prior Learning within Formal Adult education in Denmark." *PLAIO:Prioe Learning Assessment Inside Out*. VoL1, Number 2, 2012, p.2.
(https://www.eva.dk/.../recognition-of-prior-learning-within-formal-adult-education-in-denmark/download、2015年9月5日取得。)

[11] Danish Ministry of education, *National actions for promoting recognition of prior learning*. Danish Ministry of education. Copenhagen, 2008, p.8.

[12] Ibid., p.11.

[13] Ibid., p.13.

[14] https://minkompetencemappe.dk/、2015年9月5日参照。

[15] Nordentoft, A, *Prior Learning challenges in Denmark European study visit, October 2010* の資料に基づく。2014年8月11日のインタビューにて取得。

[16] 同上。

[17] Andersen, M., &Laugesen, C, Danish Evaluation Insitute(EVA), op.cit., p.5

[18] Ibid., pp.6-9.

[19] Aagaard, K, *The Danish Approach:Recognition of prior learning-Anerkendelse af realkompetencer*, 2013の資料に基づく。2014年8月8日のインタビュー時に取得。

[20] Nordentoft, A, op.cit.,

[21] OECD編著、前掲著、p.22。

[22] Andersen, B, *The Danish approach to recognition of prior learning*, 2011.
(http://www.cedefop.europa.eu/events/EUtools2011/presentations.html、2015年9月5日取得。)

[23] 他に、ボランティア活動に焦点を当てたwww.realkompetence-frivillig.dkと、協会活動に焦点を当てたwww.realkompetence-forening.dkがある。

[24] フォルケオピュリスニングコンピテンシーの内容については下記より。
(http://www.folkeoplysningskompetencer.dk/index.php 、2015年9月5日参照。)

[25] 自由成人教育それぞれの学校群についての概要は、拙稿「デンマークにおける成人教育者の質の保障と訓練:自由成人教育における成人教育者の採用と訓練に焦点をあてて」

（『日本生涯教育学会年報』第34号、pp.223-242、2013年）を参照のこと。

[26] http://www.daghojskoler.dk/fokusomraader/realkompetence.aspx、2015年9月5日参照。

[27] 2013年4月13日に生産学校協会にて担当者にインタビューを実施し、その後にメール等で関連する資料を取得。

[28] 拙稿「デンマークの生産学校における従前学習の認証に対する取り組み：生産学校協会による取り組みに着目して」(『早稲田大学教育学会紀要』第16号、pp.103-110.2015年。)